

動物のコロナウイルス感染症(1)

今回のテーマは、動物の「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)」です。原因ウイルスは「新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)」と呼ばれます。ウイルスは変異を遂げオミクロン株では病原性は減弱したものの、日本においては未だ猛威を振るっており、そろそろ第8波が来るのでは?と危惧されています。

はじめにお伝えしたいことは、COVID-19が動物から人へ感染したという報告は日本ではまだない、ということですが。

政府がCOVID-19に対して「社会活動を維持しウイルスと共存する平時への移行」を表明したことを受けて、東京都獣医師会は本年8月26日に「COVID-19は適切な環境で飼育されているペットからヒトへの感染の可能性は限りなく低いと考えている」とし、「SARS-CoV-2感染者が飼育している無症状のペットを

一般の方が預かる際には必ずしも隔離やシャンプーをする必要はなく、ペットを預かった方は、ペットの世話をする前と後、またペットのごはんや水を入れるボウル、おもちゃ、寝具、トイレや排泄物を扱った後は、必ず手を洗うようにしましょう」とする指針を発表しました。

これまでに、人から動物におけるSARS-CoV-2の感染は、犬、猫、虎で報告があります。また、農場のミンクにおいては感染が認められたばかりでなく他の人に感染させたという報告(動物から人への最初の報告)があります。フェレットは感染しやすいという実験報告もあり、猫とフェレットは各々の別の個体に感染させる可能性があると考えられています。また、ゴールデンハムスター、ある種の猿やコウモリも実験室では感染が成立したそうです。

感染の成立と発症は違います。犬は臨床症状を示す

動物の新型コロナウイルス感染症 ~新型コロナは動物にもうつる?



文・写真 中西章男
text & photo by Akio Nakanishi



ことは少ないようですが、猫はくしゃみや鼻水などの呼吸器症状が見られたとする報告もあります。日本でもSARS-CoV-2に感染した方の飼育するペットをお預かりするプロジェクトでは犬2頭で感染が認められたが、健康状態に大きな問題はなく数日で「陰性」となったと報告されています。

繰り返しますが「ペットから人への感染は現時点では報告されていません」。風評に惑わされることなく、安易な飼育放棄につながらないようにすることが重要です。ペットにマスクをさせるのは誤飲や呼吸困難を誘発

する危険があるので推奨されません。飼い主がコロナウイルスに感染した場合は、同居人と同様にペットとの接触も避けることが望ましいと考えます。

まだまだ巷にはSARS-CoV-2が蔓延していると思われるので、ご自身のペットを守るためにも飼い主が適切な予防策を引き続き講じることが大切であると思えます。

次号はさらに、動物の「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)について深掘りしてみたいと思えます。



Profile

獣医師・獣医学博士。1959年生。1986年日本獣医畜産大学(現日本獣医生命科学大学)大学院博士課程卒。大学ではフィラリア症の血行動態、腫瘍および外科の免疫について研究。1987年東京都杉並区で「阿佐谷ペットクリニック」を開院。小動物の総合診療医として犬猫のみならずウサギ、小鳥、ハムスター、モルモットなど数々の動物を診療してきた。趣味:ゴルフ、モータースポーツ、機械いじり、動物たちとの戯れ。著書:『車イスに乗ったチロ』集英社